解説

設計者からみた推進工事の課題等について

折野（おりの）　真二（しんじ）
オリジナル設計㈱
大阪事務所技術課

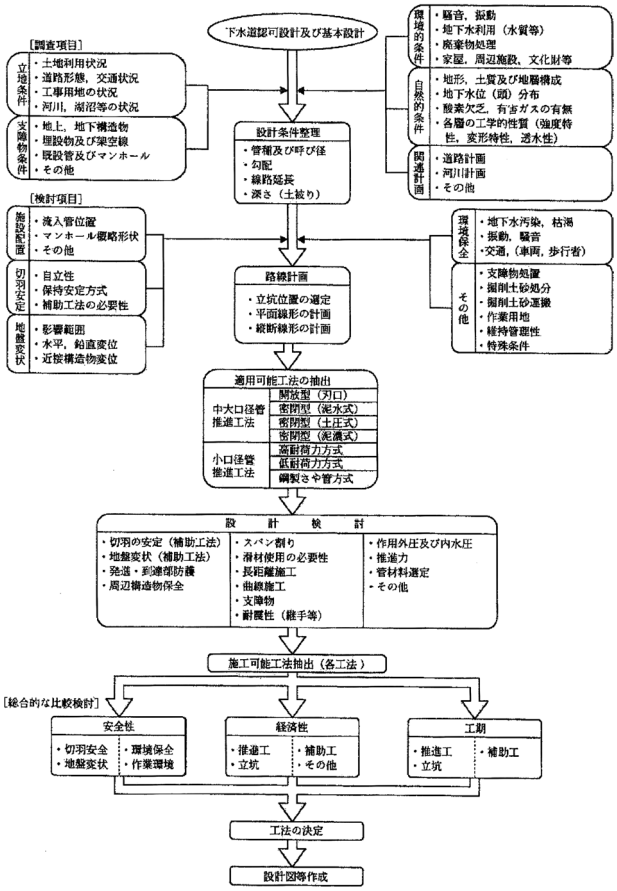
1 はじめに

推進工事技士に求められる要件は、「推進工事を適正かつ安全に施工するには、その施工管理者に通常の土木施工管理技術に加え、推進工法固有の専門化した高度な技能、技術が求められます。推進工法の技術向上と正しい普及を目指し、推進工法に係る技術、技能を公正に審査、認定することを目的」とあります。同資格保有者は9,227名（2021年4月現在）、55自治体での入札参加条件、33自治体での総合評価方式における加点対象となっています。ただし、設計コンサルタントの資格保有者は少なく、取得者割合は施工者が大半であると聞いています。

管路施設の整備ではデザインビルド方式はまだ少なく、設計と施工の分離発注が多いという現実を踏まえ、本稿は設計コンサルタントの立場から、推進工事に関する課題や問題点、解決策等を設計者の観点で述べたいと思います。

2 推進工法の設計手順

設計者が行う推進工法の設計手順は、(公社)日本下水道協会発刊の「下水道推進工法の指針と解説2010年版」等に手順フローが示されています（**図－1**）。この中で最も重要と考えられる工法選定では、現場条件に合った工法から一次選定を行い、その中から各工法協会やメーカ等へのヒアリング、地域性による施工実績



図－1　推進工法の設計手順
（出展：下水道推進工法の指針と解説 2010年版（公社)日本下水道協会）